

## 第13回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 が開催されました

### テーマ：「認知症」と「痛み」の看護を振り返る

日時：2018年6月30日(土) 14時～16時半 場所：国立看護大学校 研修棟

参加：病院・訪問看護ステーション・教育機関の看護職 28名

概要：高齢者のエンドオブライフ・ケアにおいて重要な課題の認知症と痛みの看護について基礎を振り返り、具体的な事例をもとに意見交換を行いました。日頃の体験や工夫を共有しながら、看護の目指すべき方向を語り合いました。



#### ①世話人挨拶

国立看護大学校  
成人看護学 教授 飯野京子

当交流会の経緯と、今後の取り組みについて挨拶がありました。

#### ②話題提供

##### 「エンドオブライフ期における認知症看護の基礎知識」

国立看護大学校 老年看護学 准教授 大竹恵理子氏

ご本人の「今」の状態を伺いながら、どういう時にどういう行動をされるのかをよく観察すると、ヒントが得られることがあります。ご本人ができること、したいことを見つけ、持っている力を引き出せるような看護を提供していきたいと思います。

##### 「認知症のある患者の痛みのマネジメント」

シャローム病院 がん性疼痛看護認定看護師 相良君映氏

ご本人の記憶の「点」と「点」を、看護師の観察で繋げることが大切です。「痛い」と表現できないご本人固有のサイン、表情や行動、日頃の穏やかな様子とは違うということ、意図的に観察する力、関心、アンテナを持ちたいと思います。

#### ③グループでの意見交換



#### ファシリテーター

救世軍清瀬病院 緩和ケア認定看護師 川崎遙



#### 参加者の感想より

「認知症患者さんのケアを難しく感じていましたが、自分で苦手意識を作っていたのだと思いました。しっかりと向き合って丁寧に観察と声かけをしていきたいと思いました。」

「基礎知識を再確認することができ、認知症の方の痛みは看護師の観察力が問われると感じました。患者さんの日頃の状態を良く観て、いつもとの違いに気づける感性を高めていきたいと思います。」

「参加者の悩みを一緒に考える良い時間になったと思います。自分の悩みを他の人に聞いて頂き共有しあえたことで、モヤモヤしていたことが少しすっきりしたと思います。」

#### 次回第14回交流会のご案内

日時：2018年12月1日(土) 14:00～16:30

場所：国立看護大学校 本館棟1階 教室

テーマ：「エンドオブライフケアにおけるリハビリテーション  
～その人が最期まで望み通りの生活を送るために～」

詳細はホームページ <http://tama-elc.umin.ne.jp/> もご覧ください。

次回もお待ちしております。

たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会

シャローム病院 相良君映・大石恵子

救世軍清瀬病院 川崎 遥

国立看護大学校 飯野京子・綿貴成明

長岡波子